

博士前期課程(修士) / 実践看護学領域 / 成人看護学分野
科目コード:240022

ビジュアル看護実践論 Visual Nursing Practice

担当教員	臺 美佐子、紺家 千津子、峰松 健夫、北村 言、大貝 和裕、松本 勝、長谷川 陽子、大橋 史弥				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	30		
該当ディプロマポリシー	(1)	◎	(2)	○	(3)
Keywords	生体の可視化、看護理工学、看護アセスメント、ポイントオブケア				
学習目的・目標	<p>目的: 生体反応を可視化してアセスメントする対象臓器の構造と機能を理解し、アセスメント法の原理および評価方法を学修する。</p> <p>目標: 1. 看護実践における生体反応可視化の意義を述べるができる。 2. 創傷・排泄・心不全・リンパ浮腫等に関連する生体反応の可視化方法について原理と評価方法を理解し、臨床応用の視点を説明できる。 3. 可視化された生体情報を統合的に解釈し、根拠に基づく看護アセスメントおよびケア方法を立案できる。 4. 看護学領域における生体反応可視化の実践例および研究動向を踏まえ、今後の臨床および研究への展開可能性を考察できる。</p>				
授業計画・内容					
回	内容			教員	
1	オリエンテーション 看護実践における生体反応の可視化の意義			臺	
2	皮膚の構造と機能 創傷の種類と治癒課程			峰松	
3	エコー機器の原理と特徴 看護実践でのエコーの活用方法			松本	
4	創傷アセスメントと排泄アセスメント エコーを用いたアセスメントの意義と方法1:皮膚・膀胱・大腸			松本	
5	創傷治癒におけるサイトカイン			峰松	
6	スキンケアの予防と管理 IAD(失禁関連皮膚炎)の予防と管理			峰松	
7	創傷ケアにおける栄養管理 エコーを用いたアセスメントの意義と方法2:側頭筋			長谷川	
8	心不全へのポイントオブケア エコーを用いたアセスメントの意義と方法3:心不全			大橋	
9	リンパ浮腫へのポイントオブケア エコーを用いたアセスメントの意義と方法4:リンパ浮腫			臺	
10	看護学領域における可視化の実践例と展望			臺	
11	創傷における分子生物学的アセスメントの意義と方法1: サイトカイン			大貝	
12	創傷における分子生物学的アセスメントの意義と方法2: バイオフィルム			大貝	
13	褥瘡の予防・管理における可視化の実践例と展望			北村	
14	生体反応の可視化・アセスメントに関する研究の動向			紺家	
15	まとめ			臺	
教科書					
参考図書等	看護理工学、東京大学出版会 看護に役立つ!エコーの読み方 活かし方、照林社 他 随時、講義時に提示				
評価方法・基準	レポート80%およびディスカッションの参加度20%				
関連科目	成人看護学特論、看護イノベーション特論、ビジュアル看護社会実装演習				
教員から学生へのメッセージ	見えないものを可視化してアセスメントすることで、より最適な看護実践につながります。ケアを求める方々の一番近くにいる看護者には、非侵襲的にPoint of Careが実施できるアセスメント技術は必須ともいえます。最新の知見や技術にふれながら、一緒に学びましょう。				